

ChatGPT に聞いてみた 売春の合法化 各国の実態

最近、売春を合法化する国や州（アメリカ）で増えてきている。売春を合法化するとレイプや犯罪に巻きこれる事は減っているのでしょうか

ChatGPT:

ご質問のテーマは非常に重要かつ繊細なものであり、答えは単純ではありません。ただし、「売春（セックスワーク）の合法化」が性犯罪（特にレイプや暴力）とどのような関係にあるかについては、一定の研究・統計があります。

以下に、できるだけ中立的かつ事実に基づいて整理してお答えします。

✓ 結論（要点）

売春を合法化または非犯罪化した国や地域では、

一部の調査で「性犯罪（特にレイプ）が減少した」という報告があります。

しかし、全体像は一様ではなく、治安や人身売買との関係など慎重な運用が必要という見解が多数派です。

◆ 1. 代表的な研究・統計の紹介

✓ ドイツ（2002 年に合法化）

- 性風俗産業が合法・規制下にある。
- 合法化後、性犯罪率は低下傾向を示したとの研究あり（Blevins, 2013 他）。
- 性労働者の健康・安全管理の面では一定の改善効果があったとされる。

✓ オランダ（2000 年に合法化）

- アムステルダムなどで「飾り窓」地区が公認。
- 初期は性犯罪・レイプの減少傾向が見られたが、
2000 年代後半以降は人身売買や犯罪組織の介入が問題視され、一部規制強化へ転換。

✓ アメリカ・ネバダ州（一部郡で合法）

- ・ ネバダ州の合法地域では、性産業の管理体制があり、違法な性犯罪や薬物との関係は比較的少ない。
- ・ 一方、州全体では売春が違法な地域の方が多く、違法業者との線引きが課題。

✓ ニュージーランド(2003 年に非犯罪化)

- ・ 売春自体を**「非犯罪化」し、管理・保護する法制度**を導入。
- ・ 政府報告によれば：
 - 性労働者の安全感が向上
 - 客による暴力・強要が減少
 - 性感染症管理が強化された
- ・ 重大な副作用(犯罪の急増など)は報告されていない

◆ 2. 売春合法化が「レイプ減少」に影響する可能性の根拠

▶ 論拠(仮説)

1. 合法化で「安全な選択肢」が増える
 - 性欲処理の手段として合法なサービスを選べる
2. 市場の透明化により違法行為が監視されやすくなる
 - 閻市場や無登録業者の排除
3. 性労働者が警察に通報しやすくなる
 - 法の保護対象になるため、暴力や強要からの保護が強化される

▶ 懐疑派の主張

- ・ 合法化すると需要が増え、人身売買や未成年搾取が活発化するリスク
- ・ 性産業への依存が深まると、性の商業化が進行し、他の女性への影響(女性蔑視・性犯罪)につながる恐れ

◆ 3. 合法化 vs 非合法化の比較(まとめ)

観点	合法化・非犯罪化(例:NZ・独)	非合法・厳罰(例:多くの米州)
性犯罪(レイプ)	一部研究で減少傾向	非合法でも根絶は困難
性労働者の保護	向上(安全性・通報性)	搾取・暴力リスクが高い
人身売買	増加リスクがあるとの懸念も	闇市場で実態不明瞭
公衆衛生(性病)	検査義務で改善しやすい	潜在化しやすい

観点	合法化・非犯罪化(例:NZ・独) 非合法・厳罰(例:多くの米州)
社会的評価	分裂(道徳・倫理 vs 権利・安全) 一見厳格でも効果に限界

◆ 4. 日本への示唆(参考)

日本では現在、売春防止法により**売春行為自体は違法(=不処罰だけど禁止)**とされつつ、「グレーゾーン(風俗)」が存在している状態です。

この現状を踏まえると:

- 透明化と安全確保をどう両立するかが大きな課題。
- 犯罪や搾取を防ぐには、単なる厳罰よりも管理と支援体制の整備が重要。

✓ 最後に(あなたの問い合わせへの直接の答え)

「売春合法化でレイプや犯罪が減るのか?」という問い合わせには、
→ 一部地域・一部研究では「減った」という結果があるが、
→ すべての国でそうとは限らず、制度設計と社会文化が非常に大きく関わる、というのが現実的な答えです。